

婦人科腹腔鏡手術を受けた患者の術後痛の程度・PONV発生率とIV-PCA使用有無との関連性について

堀 深雪 安村里絵*

IRYO Vol.78 No.6 (349-354) 2024

要旨

腹腔鏡手術は、開腹手術と比べて侵襲も少ないことから入院期間の短縮に大きく寄与すると共に、その件数や適応も近年さらに拡大している。また、術後の疼痛管理に関しても、硬膜外麻酔から侵襲の少ない多面的鎮痛法への切替が行われ、経静脈的自己調節鎮痛法(IV-PCA)を用いた疼痛管理が広く行われるようになってきた。

しかし、IV-PCAは利便性が高い一方で、麻薬の持続投与による術後の嘔気・嘔吐(Postoperative nausea and vomiting: PONV)を増加させるという別の側面も併せ持つ。そこで本研究では、とくにPONVのリスクが高いとされる婦人科腹腔鏡手術を受けた患者において、IV-PCA使用の有無で術当日・翌日の疼痛の程度とそれに付随したPONVの発生状況がどの程度異なるのかを後方視的に調査・検討することを目的とした。

2017年4月1日～2020年2月29日に、当院で施行した末梢神経ブロック併用全身麻酔下における婦人科腹腔鏡手術症例のうち、条件に該当した全109件(IV-PCA使用群61件、IV-PCA不使用群48件)を対象とし、後方視的に検討した。

両群を比較した結果、疼痛に関しては術当日で有意差を認め、IV-PCA使用群のペインスケールが有意に低かったが、術翌日では有意差を認めなかった。また、手術当日入室後の追加鎮痛薬使用率については、IV-PCA使用群でも47.5%が別の追加鎮痛薬を使用していたが、不使用群と比較すると有意に少なかった。

一方PONVの有無に関しては、術当日は両群間に有意差を認めなかったが、術翌日はIV-PCA使用群のPONV発生率が上昇し、有意に高い結果となった。

以上の結果から、IV-PCA使用により術当日のペインスケールは有意に下がるが、術翌日のPONV発生率は高くなることが明らかとなった。PONVを防ぎつつ術後痛改善も図るためには、患者の状況に応じたIV-PCA使用が求められる。

キーワード：婦人科腹腔鏡手術、経静脈的自己調節鎮痛法、術後痛、PONV

国立病院機構東京医療センター クリティカルケア支援室 *国立病院機構東京医療センター 麻酔科 †診療看護師
著者連絡先：堀 深雪 国立病院機構東京医療センター クリティカルケア支援室
〒152-8902 東京都目黒区東が丘2-5-1

e-mail: horihori122378@gmail.com

(2024年4月16日受付 2024年12月20日受理)

The Relationship between Postoperative Pain and PONV Incidence in Patients Undergoing Gynecological Laparoscopic Surgery

Miyuki Hori and Rie Yasumura*

Critical Care Support Section, *Department of Anesthesiology, NHO Tokyo Medical Center

(Received Apr. 16, 2024, Accepted Dec. 20, 2024)

Key Words: gynecological laparoscopic surgery, IV-PCA, postoperative pain, PONV